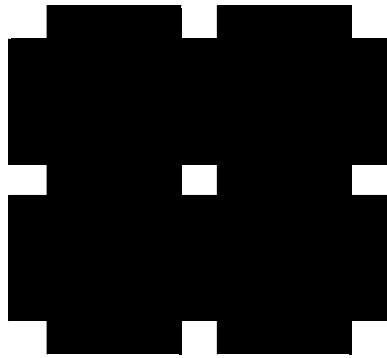


平成 2 3 年 度

事 業 概 要



岐阜市保健所食肉衛生検査所

はじめに

昨年は、焼肉チェーン店で食肉の生食による集団食中毒事件が起こり、多くの尊い命が失われました。これにより厚生労働省は、生食用食肉の規格基準を設定し、さらに生レバーの生食禁止等の法整備を行っております。

また、福島原発事故により汚染された稲わらが流通し、この稲わらを食べたことにより一部の牛から放射性セシウムが検出され、これに風評被害が重なり、今でも多くの自治体、関連機関で牛の放射能検査が行われております。

このように、食肉の安全性についての信頼回復のために、様々な取り組みが行われております。また、近年、口蹄疫・高病原性鳥インフルエンザ等の家畜伝染病が発生しており、またいつ発生してもおかしくない状況が続いております。

このような食肉を取り巻く現在の状況を見ておりますと、これからの食肉の衛生は、と畜場という枠での衛生確保のみならず、農政部局、特に生産現場で働く人々と連携し、現場（どのような環境の中で、どのような飼養をされた家畜なのか）まで踏み込んだ衛生について考え、家畜の価値を最大限に発揮できる環境を整えていかなければならないと考えます。

これからも、市民並びに消費者の方々に安全・安心な食肉が提供できますよう、行政に携わる者として職員いっそう研鑽を積み、食肉の安全性確保に努めてまいりますので、関係各位のご指導、ご助言をお願いします。

ここに、平成23年度の事業概要をとりまとめましたので、お役に立てれば幸いに存じます。

平成24年11月吉日

岐阜市保健所食肉衛生検査所

所長 磯野元彦

目 次

第1章	総 説	
1	沿 革	1
2	所在地	2
3	組織・機構	3
4	職員構成	3
5	所轄と畜場及び食鳥処理場	3
6	検査手数料等	4
7	検査所平面図	4
8	主要検査機器	5
第2章	と畜検査業務	
1	と畜検査頭数	
(1)	年度別と畜検査頭数	7
(2)	月別と畜検査頭数	8
(3)	と畜場外と畜頭数	8
(4)	緊急と畜検査頭数	8
(5)	牛産地別出荷頭数	8
2	と畜検査結果に基づく措置	
(1)	獣畜のと畜禁止又は廃棄したものの疾病別内訳	9
(2)	一部廃棄したものの病類別内訳	10
(3)	過去10年間の疾病別全部廃棄の推移	12
3	精密検査実施状況	
(1)	精密検査件数	13
(2)	残留抗菌性物質検査件数	13
(3)	抗菌性物質等の残留物質モニタリング調査件数	13
(4)	BSEスクリーニング検査頭数	14
(5)	枝肉の微生物汚染調査件数	14
(6)	グリア繊維性酸性タンパク (GFAP) 残留量調査件数	14
第3章	食鳥検査業務	
1	検査羽数	
(1)	月別食鳥検査羽数	15
(2)	年度別検査羽数推移	15
2	精密検査実施状況	
(1)	精密検査件数	17
(2)	残留抗菌性物質検査件数	17
(3)	抗菌性物質等の残留物質モニタリング検査件数と内訳	17
3	検査廃棄処分したものの内訳	
(1)	食鳥のとさつ、内臓摘出禁止又は廃棄したものの原因	18
(2)	月別疾病羽数・処分羽数	19
第4章	その他の事業	
	衛生講習会等の実施状況	20
第5章	調査研究	
1	調査研究発表演題一覧	21
2	平成23年度調査研究 SOPの映像化による、残留動物用医薬品検査法の伝達	22
第6章	付 表	
	食肉市場の概要	25

第1章 総説

1. 沿革

大正12年	3月	岐阜市上加納山にと畜場設置 市営と畜場として開場
昭和24年	12月	法改正により岐阜市が政令市となる と畜検査業務が、岐阜市保健所所管となる
昭和42年	11月	岐阜市茜部5635の1にと畜場を新築移転 岐阜市食肉センターと改称 岐阜市南保健所衛生課と畜検査係となる
昭和48年	1月	岐阜市食肉地方卸売市場として開設許可を受ける
昭和49年	4月	岐阜市南保健所食肉検査課となる
昭和52年	4月	町名変更により岐阜市境川5-148となる
昭和56年	2月	食肉検査室完成 鉄骨平屋建 68㎡
昭和56年	4月	機構改革により岐阜市中央保健所食肉検査課となる
昭和63年	2月	食肉検査室増改築完成 鉄筋コンクリート二階建一部鉄骨平屋建 308㎡
平成4年	4月	食鳥処理の事業の規制及び食鳥検査に関する法律の 施行により食鳥検査業務が食肉検査課所管となる 検査一係 ・ 検査二係となる
平成6年	4月	名称変更により岐阜市中央保健所食肉衛生検査所 となる
平成9年	4月	機構改革により岐阜市保健所食肉衛生検査所となる と畜検査係 ・ 食鳥検査係となる
平成11年	4月	名称変更により、と畜検査係が食肉検査係となる
平成12年	4月	機構改革により岐阜市保健福祉部保健所食肉衛生 検査所となる
平成13年	10月	BSEスクリーニング全頭検査開始
平成14年	4月	BSE専用検査室完成
平成15年	4月	機構改革により岐阜市市民健康部保健所食肉衛生 検査所となる 食肉検査グループ ・ 食鳥検査グループとなる
平成17年	4月	と畜検査手数料を改定
平成20年	4月	機構改革により市民健康部が健康部となる
平成23年	4月	機構改革により食肉検査係・食鳥検査係となる

〒500-8266

岐阜市境川5丁目148番地

電話 (058)275-1550

FAX (058)275-1554

アクセス方法

鉄道利用の場合

1) 駅よりタクシー利用の場合

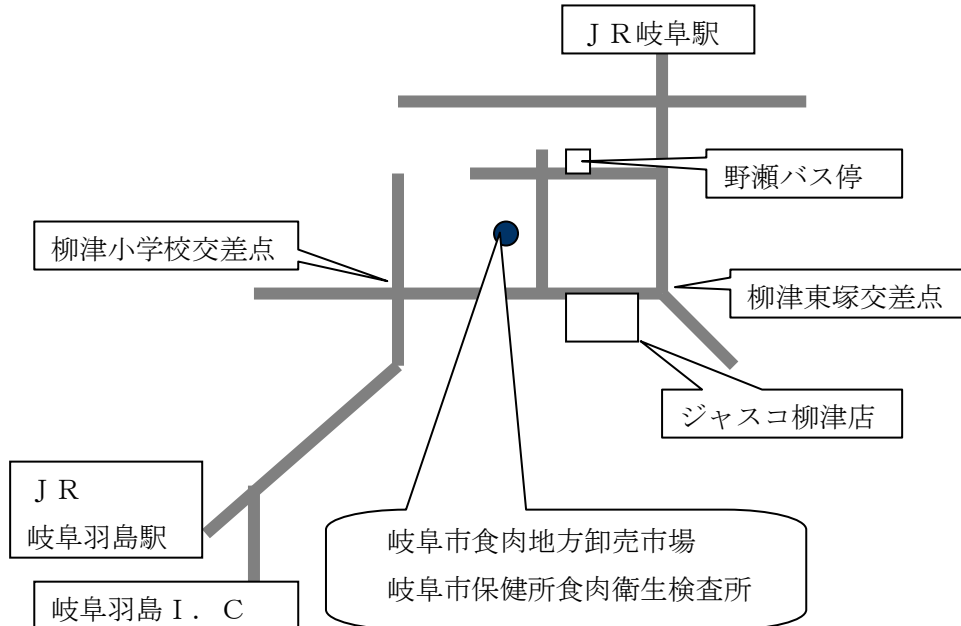
JR岐阜駅、JR新幹線岐阜羽島駅より、「岐阜市食肉地方卸売市場」行きを告げる。

2) 駅よりバス利用の場合

JR岐阜駅より、岐阜バス三田洞茜部線「高桑行き」に乗車し野瀬バス停下車後
前進し最初の交差点を左折し600m南進する。

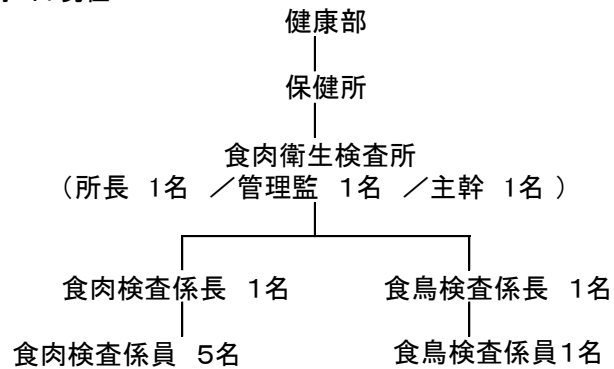
高速道路利用の場合

名神高速岐阜羽島I. C出口を左折し直進後、県道151号(岐阜羽島線)に右折して入る。
さらに直進して県道1号に合流して進み柳津小学校前交差点を右折して、
9番目の交差点を左折し200m進む。



3. 組織・機構

平成24年4月1日現在



4. 職員構成

平成24年4月1日現在

職名	人数
所長	1
管理監	1
主幹	1
副主幹	2 (係長 1)
主査	2 (係長 1)
主任	3
主任技師	1
嘱託職員	3 (食肉検査係 3名)
計	14

5. 所轄と畜場及び食鳥処理場

平成24年4月1日現在

所轄	名称	所在地
と畜場	岐阜市食肉地方卸売市場	岐阜市境川5丁目148
食鳥処理場	株式会社ギフシヨク	岐阜市安食491

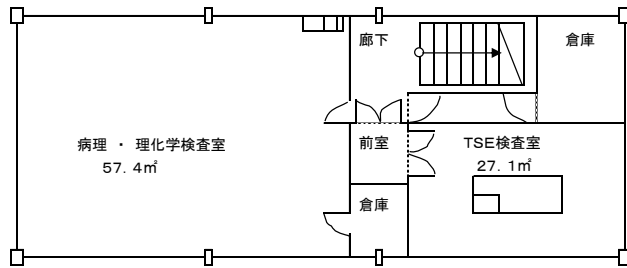
6. 検査手数料等

平成24年4月1日現在

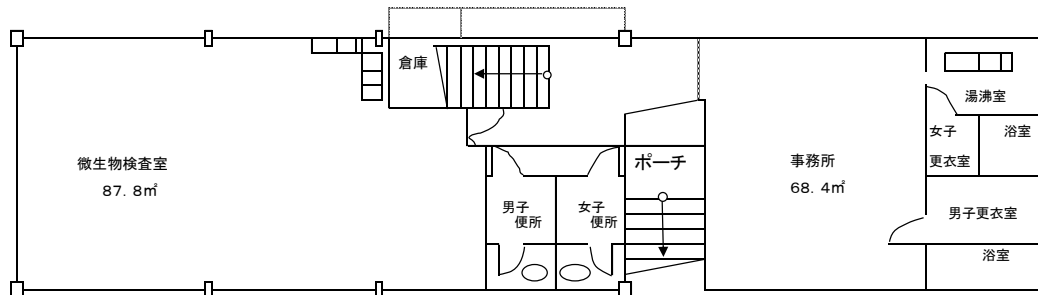
畜種	検査手数料	と畜場使用料	解体料	備考
牛・馬	700	2,520	4,200	
豚	300	840	2,000	枝肉重量100kg以上
	300	840	1,050	
とく	300	840	1,050	
めん羊・山羊	300	840	1,050	
食鳥	3	—	—	

(1頭又は1羽につき 単位: 円)

7. 検査所平面図



2階



1階

出入口

8. 主要検査機器

微生物関係

機器名	数量	型 式
デシケーター	2	井内 WVN他
電子上皿天秤	2	メトラー PJ-360 TANITA KD-200
超音波洗浄器	1	ヤマト IC-42
薬用冷蔵庫	5	サンヨー MPR-1011他
ディープフリーザー	1	日本フリーザー VT-208
恒温振盪水槽	1	東洋アドバンテック TS-20S
バイオクリーンベンチ	1	サンヨー MCV-B161F
蛍光顕微鏡	1	オリンパス BHS-RFK-AI型
倒立顕微鏡	1	オリンパス CK2-TR
顕微鏡撮影装置一式	2	オリンパス BH-2 ニコン eclipse 80i、KEYENCE VB-7010
現像焼付装置一式	1	オリンパス
スライド投影器	1	キャビン工業オートキャビン
ストマッカー	1	ゲンゼマスティケーター 400D
ホモジナイザー	1	日立 HG30
フリーザー	1	サンヨー MDF-235
CO ₂ インキュベーター	1	サンヨー MCO-175
インキュベーター	2	サンヨー MIR-252
	1	ヤマト IC-102
オートクレーブ	1	サンヨー MLS-3000
	1	サンヨー MLS-3750
乾熱滅菌器	2	ヤマト SG-81 ADVANTEC FC-612
恒温乾燥機	1	サンヨー MDV-102
DNA増幅装置	2	宝酒造 TP-3000 Verit™ 200
電気泳動装置一式	1	イワキ ALB-301
電気泳動撮影装置	1	フナコシ FP-6000
トランスイルミネーター	1	フナコシ LM-20-E
微量高速遠心器	1	トミー MX-160
製氷器	1	ホシザキ KM
デンストメーター一式	1	ATTO TYPE-CY
蒸留水製造装置	1	ADVANTEC RFD240NA
超純水製造装置	1	ミリポア SIMSV0000

BSE関係

機器名	数量	型 式
電子上皿天秤	1	ザルトリウス 363-65-58-19
細胞・試料破碎装置	1	安井器械 マルチビーズショッカー
	2	フナコシ FastPrep FP120
電動連続分注器	5	エッペンドルフ マルチペットプロ、マルチペットstream、マルチペットプラス×3
恒温水槽	1	アズワン サーマルロボTR-1A
冷却遠心機	2	クボタ 3615、エッペンドルフ Centrifuge 5417R
ボルテックス	2	VORTEX GENIE2 G560
サーモアルミバス(2槽式)	1	IWAKI DOUBLE ALUMI BATH ALB-301
	1	COOL STAT anatech モデル 5520a
マイクロプレートウォッシャー	2	バイオラッド モデル1575
マイクロプレートリーダー	2	バイオラッド モデル550、Thermo Multiskan FC Type357
冷凍冷蔵庫	1	SANYO MEDICOOL MPR-414FS
高圧蒸気滅菌器	1	TOMY精工 KS-323
安全キャビネット	1	HITACHI SCV

理化学関係

機器名	数量	型 式
遠心分離機	2	KOKUSAN H-103N
分光光度計	1	島津 UV-120-02
アスピレーター	1	イワキ ASP-13MDA
恒温器	1	ヤマト IC-102
ロータリーエバポレーター	2	東京理化 N-1000型
電気泳動装置	1	アトー科学
高速液体クロマトグラフ	2	島津 LC-10Aシステム
分光蛍光検出器	1	島津 RF-10AXL
フォトダイオードアレイ検出器	1	島津 SPD-M10AVP
電子上皿天秤	1	PB303-S 島津AUW220D
超音波洗浄器	1	エルテック UT-30A
ピペット用超音波洗浄器	1	島津 SUS-100PN
薬用保冷库	3	サンヨー MPR-504他
バイオメディカルフリーザー	1	三洋電気(株) MDF-U338他
赤外線水分計	1	島津 TV-250D
全自動スーパードライシステム	2	スポットケムSP-4410 スポットケムSP-4430
pHメーター	1	東亜DKK HM-30G
振とう器	1	ヤマト SA300
蒸留水製造装置	1	アドバンティック RFD230RA

病理関係

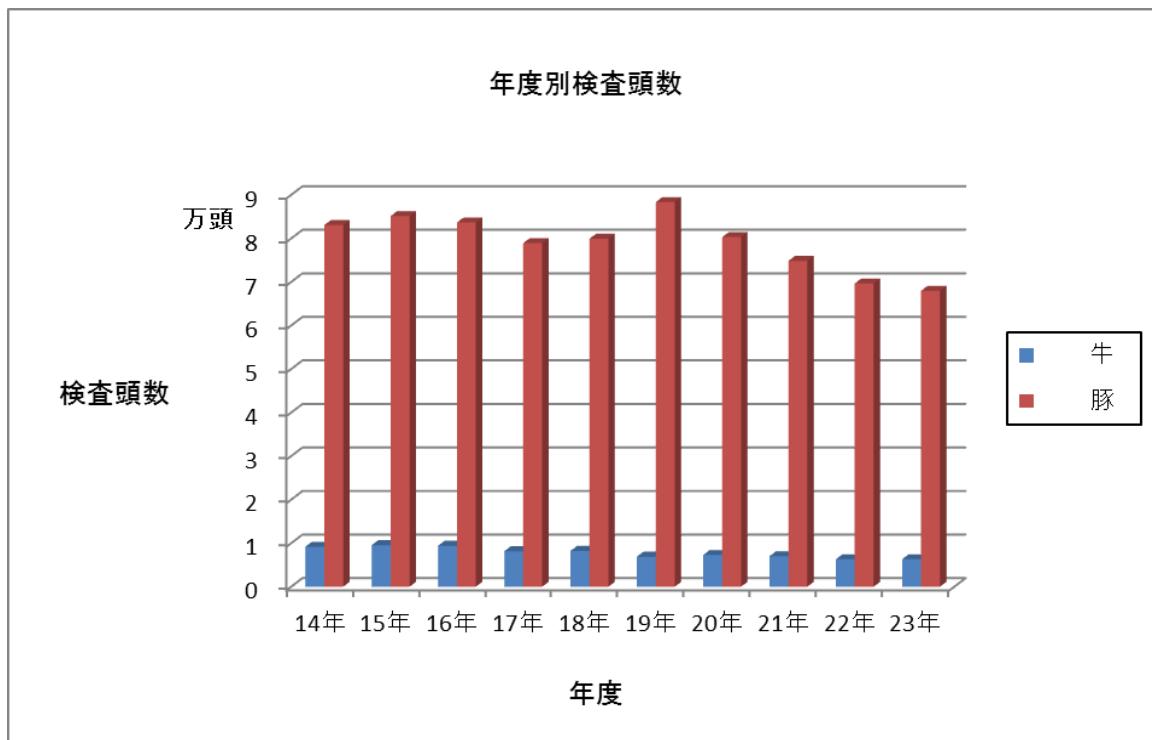
機器名	数量	型 式
マイクローム 一式	1	ヤマト工機 TU-213
クリオスタット	1	白井松 スターレット2122
パラフィン溶融器	1	池本理化 B1
ドラフトチャンバー	1	ヤマト FRS-120型
実体顕微鏡	1	オリンパス SZH10-131
自動包埋器	1	白井松 オーキット1400P
パラフィン伸展器	1	サクラ PS-52
フリーザー	1	三洋 MDF-330
ドライキーパー	1	島津 ED-130

第2章 と畜検査業務

1. と畜検査頭数

(1) 年度別と畜検査頭数

年度 \ 畜種	牛	馬	豚	とく	めん羊 山羊	総数
14年	9,189		83,080			92,269
15年	9,550		85,145			94,695
16年	9,408		83,678	1		93,087
17年	8,158		78,925			87,083
18年	8,231		79,950	1		88,182
19年	6,908		88,368	1		95,277
20年	7,295		80,306			87,601
21年	7,015		74,846	3		81,864
22年	6,290		69,647			75,937
23年	6,306	1	67,975			74,282



(2) 月別と畜検査頭数

月	畜種	黒毛和種		交雑種		ホルスタイン種		ブラウンスイス種		肉専用種		牛計	とく	馬	豚	めん羊	山羊	総数
		去勢	雌	去勢	雌	去勢	雌	去勢	雌	去勢	雌							
4		332	137	12	1	48	1	0	0	18	0	549	0	0	6,102	0	0	6,651
5		261	102	10	3	51	0	0	0	7	0	434	0	0	5,418	0	0	5,852
6		274	144	13	3	44	0	0	0	11	0	489	0	1	4,999	0	0	5,489
7		331	143	5	5	39	0	0	0	9	0	532	0	0	5,030	0	0	5,562
8		264	128	4	4	11	0	0	0	6	0	417	0	0	5,664	0	0	6,081
9		326	159	4	3	16	0	0	0	13	0	521	0	0	5,799	0	0	6,320
10		294	127	8	4	46	0	0	0	3	0	482	0	0	6,006	0	0	6,488
11		457	243	5	3	24	0	0	0	14	0	746	0	0	6,126	0	0	6,872
12		567	218	7	0	19	0	0	0	10	0	821	0	0	5,762	0	0	6,583
1		249	129	8	3	4	0	0	0	9	0	402	0	0	5,893	0	0	6,295
2		252	107	7	2	5	0	0	0	10	0	383	0	0	5,490	0	0	5,873
3		336	163	5	4	5	0	0	0	17	0	530	0	0	5,686	0	0	6,216
総数		3,943	1,800	88	35	312	1	0	0	127	0	6,306	0	1	67,975	0	0	74,282

(3) と畜場外と殺頭数

切迫と殺	畜種	牛	とく	馬	豚	合計
不慮の災害で救うことのできない状態	0	0	0	0	0	
難産	0	0	0	0	0	
産褥麻痺	0	0	0	0	0	
急性鼓脹症	0	0	0	0	0	

(4) 緊急と畜検査頭数

畜種	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
		牛	5	2	3	0	1	3	3	0	3	5	1	
豚	0	0	1	0	0	2	0	1	0	0	0	0	4	

(5) 牛産地別出荷頭数

出荷県	黒毛和種			交雑種			ホルスタイン種			ブラウンスイス種			和牛間交雑種			総計
	去勢	雌	計	去勢	雌	計	去勢	雌	計	去勢	雌	計	去勢	雌	計	
岐阜	3,385	1,741	5,126	34	20	54	139	0	139	0	0	0	127	0	127	5,446
長崎	489	31	520	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	520
福井	13	1	14	51	0	51	0	0	0	0	0	0	0	0	0	65
愛知	12	6	18	2	13	15	31	0	31	0	0	0	0	0	0	64
三重	2	0	2	0	0	0	51	0	51	0	0	0	0	0	0	53
北海道	0	0	0	0	0	0	48	0	48	0	0	0	0	0	0	48
静岡	0	0	0	0	0	0	42	0	42	0	0	0	0	0	0	42
神奈川	13	15	28	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	28
鹿児島	26	0	26	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	26
滋賀	0	1	1	1	0	1	1	1	2	0	0	0	0	0	0	4
岩手	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
長野	0	1	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
奈良	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
宮城	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
大阪	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
兵庫	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
山口	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
総計	3,943	1,800	5,743	88	35	123	312	1	313	0	0	0	127	0	127	6,306

2. と畜検査結果に基づく措置

(1) 獣畜のと殺禁止又は廃棄したものの疾病別内訳

畜種		牛			とく			馬			豚			めん羊			山羊		
措置		禁止	全部 廃棄	一部 廃棄	禁止	全部 廃棄	一部 廃棄	禁止	全部 廃棄	一部 廃棄	禁止	全部 廃棄	一部 廃棄	禁止	全部 廃棄	一部 廃棄	禁止	全部 廃棄	一部 廃棄
処分実頭数			20	3,688								138	32,448						
細菌病	炭疽			/			/			/			/			/			/
	豚丹毒	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
	サルモネラ症			/			/			/			/			/			/
	結核病																		
	ブルセラ病						/		/				/			/			/
	破傷風			/			/			/			/			/			/
	放線菌症	/		/	/		/		/		/		/		/		/		/
	その他																		
リケッチャ病	豚コレラ	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
	その他																		
原虫病	トキソプラズマ病			/			/			/			/			/			/
	その他																		
寄生虫病	のう虫病																		
	ジストマ病	/		26	/		/		/		/		/		/		/		/
	その他												8,613						
その他の疾病	膿毒症			/			/			/		91	/			/			/
	敗血症		4	/			/			/		34	/			/			/
	尿毒症		10	/			/			/		6	/			/			/
	黄疸		2	11								1	3						
	水腫			58									145						
	腫瘍												1						
	中毒諸症			/			/			/			/			/			/
	炎症又は炎症産物による汚染	/		5,164	/		/		/		/	6	45,955	/		/		/	
	変性又は萎縮	/		474	/		/		/		/		1,626	/		/		/	
	その他		4	1,725									10,594						
計			20	7,458								138	66,937						

(2) 一部廃棄したものの病類別内訳

病類	畜種	牛	とく	馬	豚	めん羊	山羊
消化器系	肝 肝 蛭 症	26					
	肝 間 質 炎				5,725		
	肝 膿 瘍	268			3		
	肝 包 膜 炎	199			2,649		
	胆 管 炎	201					
	肝 炎	145			1,092		
	褪 色 肝	463			4,283		
	脂 肪 肝						
	肝 硬 変	10			172		
	肝 富 脈 斑	2					
	肝 出 血 斑	992					
	鬱 血 肝	9			3		
	鋸 屑 肝	468					
	胃 炎	350			1,105		
	創 傷 性 胃 炎						
	胃 潰 瘍				7,739		
	鼓 張 症						
	小 腸 炎	604			4,432		
	大 腸 炎	555			4,431		
	大 腸 粘 膜 変 色						
	腸 間 膜 脂 肪 壊 死	23					
	腸 間 膜 リンパ 乾 酪 変 性				72		
	腸 リンパ 壊 死						
	腸 間 膜 水 腫				7		
	腸 間 膜 膿 瘍						
	直 腸 脱	1			32		
	鎖 肛						
	回 虫 寄 生				2,888		
	腸 気 泡 症				2		
	脾 臓 炎						
	へ ル ニ ア	2			434		
	腹 膜 炎	18			1,967		
直 腸 周 囲 脂 肪 壊 死	137						
呼吸循環器系	肺 炎	119			8,938		
	肺 膿 瘍	28			3,648		
	胸 膜 炎	63			2,264		
	血 液 吸 入 肺	23			3,347		
	異 物 吸 入 肺	8					
	肺 気 腫	51			1,874		
	肺 水 腫						
	心 外 膜 炎	11			2,199		
	心 内 膜 炎	3			27		
	心 筋 炎	5					
	横 隔 膜 水 腫	5					
	横 隔 膜 膿 瘍	69			57		
	横 隔 膜 筋 肉 出 血	2					
	縦 隔 膜 水 腫	10					
	縦 隔 膜 膿 瘍	7					
	縦 隔 膜 筋 肉 出 血	7					
	脾 う っ 血				15		
	脾 膿 瘍						
脾 出 血 梗 塞				6			

病類		畜種	牛	とく	馬	豚	めん羊	山羊
泌尿生殖器系	腎炎	22				173		
	腎膿瘍	20				12		
	腎嚢胞					1,360		
	腎水腫					2		
	腎脂肪壊死	281						
	腎結石	46						
	膀胱炎	20				6		
	膀胱結石	37				6		
	尿道炎	10						
	尿道結石	23						
	妊娠子宮					40		
	死胎							
	卵巣嚢腫					7		
	子宮内膜炎					35		
	子宮蓄膿					3		
	子宮脱					2		
	膣脱					4		
	乳房炎					17		
	皮膚運動器系	皮膚炎	15				10	
角損傷		1						
四肢骨折		7				130		
その他骨折		3				30		
脱臼		8				65		
関節炎		40				635		
四肢膿瘍		8				648		
その他膿瘍		44				2,314		
筋肉水腫		42				136		
筋肉変性		31				187		
筋肉出血		18				168		
褥創						16		
打撲傷		792				783		
咬傷						408		
挫傷		5				10		
火傷						6		
放線菌症								
その他	奇形	51				309		
	抗生物質陽性							

(3) 過去10年間の疾病別全部廃棄の推移(と畜場法・食品衛生法による)

	疾病名	年度	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	合計
牛	敗血症			1	1			2		4	1	4	13
	尿毒症		2	10	22	4	3	10	9	7	13	10	90
	高度の黄疸		3	1	5	2	2	2	2		2	2	21
	高度の水腫			1		1	1		1		2		6
	白血病		1			1		1	3	2	2	4	14
	中毒諸症												0
	炎性産物等による汚染			1	1				1				3
	抗菌性物質等残留												0
	合計		6	14	29	8	6	15	16	13	20	20	147
	豚	敗血症		15	22	22	19	12	19	32	23	25	34
膿毒症			47	40	35	36	29	71	81	58	91	91	579
豚丹毒			1	2	1			1	8	5	1		19
尿毒症			3	2	4	5	1	3	2	2	6	6	34
高度の黄疸			5	3	2	2	1	3				1	17
白血病			1				3						4
熱性諸症													0
抗菌性物質等残留													0
その他			7	2		1	1	1	2	1	4	6	25
合計			79	71	64	63	47	98	125	89	127	138	901

3. 精密検査実施状況

(1) 精密検査件数

畜種	項目 病類		検査頭数	精密検査内容				処分 全部廃棄頭数	
				細菌	病理	理化学			原虫その他
						血液検査	その他		
牛	敗血症	症状心内炎	3	3		2	2		3
		その他	1	1		2	2		1
	尿毒症	65			65	22			10
	黄疸	27			27	5			2
	水腫	1			1	1			
	炎症								
	白血病	5		5	5	1			4
その他				114	37				
豚	敗血症	症状心内炎	30	30		3			30
		その他	4	2		1			4
	尿毒症	20			20	8			6
	黄疸	8			8	2			1
	膿毒症	91	1		9	8			91
	白血病								
	豚丹毒	1	1						
	変性または萎縮								
炎症	6	1						6	
中毒									
その他					34	27			
総計			262	39	5	291	115	0	158

(2) 残留抗菌性物質検査件数

I 病畜検査

畜種	検査頭数	検査検体数	陽性検体数	
			筋肉	腎臓
牛	59	118	0	1
豚	38	76	0	1
合計	97	194	0	2

II 繁殖豚検査

検査頭数	陽性頭数
556	0

(3) 抗菌性物質等の残留物質モニタリング調査件数

検査項目名	畜種	検査検体数	検査結果
抗菌性物質	牛	192	全て基準値以下
	豚	192	
内部寄生虫用剤	牛	24	
	豚	16	

(4) 牛海綿状脳症(BSE)スクリーニング検査頭数

月 齢	月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
21ヶ月齢 未満		4	18	28	11	2	1	9	2	4	1	2	0	82
21ヶ月齢 以上		545	416	461	521	414	521	473	744	817	401	381	530	6,224
30ヶ月齢 未満		420	352	387	402	281	349	330	512	606	238	237	358	4,472
30ヶ月齢 以上		129	82	102	130	135	173	152	234	215	164	146	172	1,834
計		549	434	489	532	416	522	482	746	821	402	383	530	6,306
最高月齢		38	35	34	36	37	38	35	38	38	36	34	35	

※放射能検査のため、8/31と畜した1頭は9/1にBSEスクリーニング検査を実施。

(5) 枝肉の微生物汚染調査件数

畜種	検査頭数	検査検体数	検査項目					
			一般生菌数	大腸菌群数	O-157	サルモネラ属菌	黄色ブドウ球菌	カンピロバクター
牛	230	460	460	460	460	460	460	460
豚	240	480	480	480	480	480	480	480
計	470	940	940	940	940	940	940	940

(6) グリア繊維性酸性タンパク(GFAP)残留量調査件数

検査対象	検査頭数	検査検体数
牛枝肉	40	80

第3章 食鳥検査業務

1. 検査羽数

(1) 月別食鳥検査羽数(B 施設のみ)

※A施設

平成21年10月1日～平成22年8月6日 休業

平成22年8月6日 廃止

月	ブロイラー	成鶏	あひる	計
4月	0	70,250	0	70,250
5月	0	66,006	0	66,006
6月	0	88,855	0	88,855
7月	0	79,878	0	79,878
8月	0	90,113	0	90,113
9月	0	100,783	0	100,783
10月	0	75,095	0	75,095
11月	0	61,984	0	61,984
12月	0	107,001	0	107,001
1月	0	104,798	0	104,798
2月	0	62,791	0	62,791
3月	0	94,031	0	94,031
	0	1,001,585	0	1,001,585

(2) 年度別検査羽数推移

A施設

年度	ブロイラー	成鶏	あひる	検査羽数
19年度	750,355	0	0	750,355
20年度	760,713	0	0	760,713
21年度	290,701	0	0	290,701
※22年度	0	0	0	0
23年度	0	0	0	0

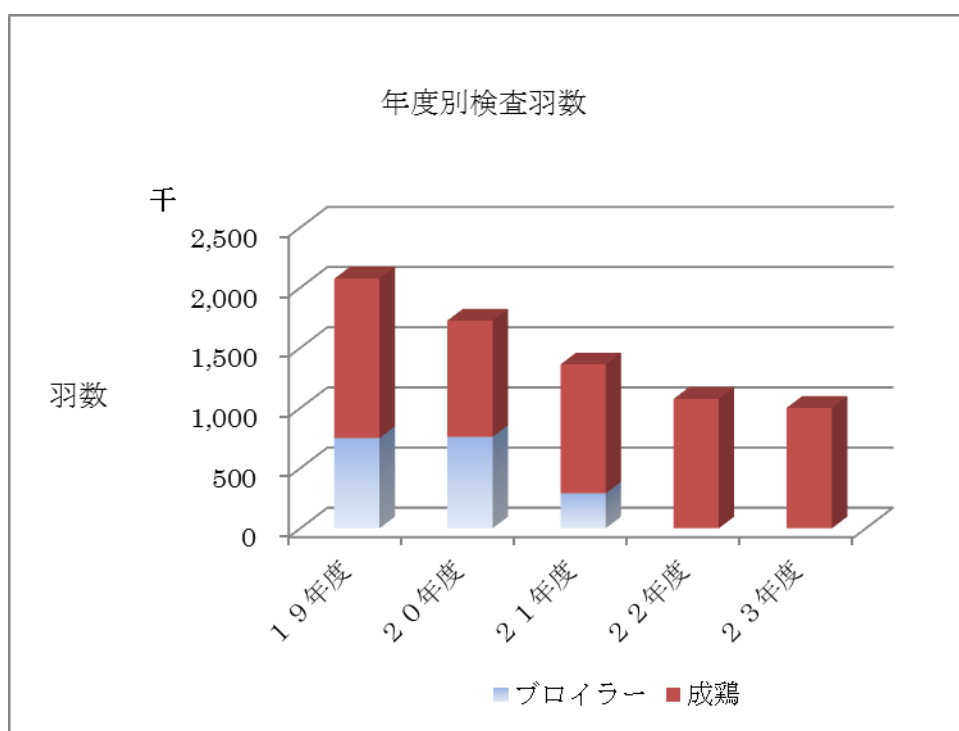
※A施設は平成21年10月以来休業、平成22年8月に廃止届が提出された

B施設

年度	ブロイラー	成鶏	あひる	検査羽数
19年度	0	1,324,097	0	1,324,097
20年度	0	965,928	0	965,928
21年度	0	1,071,654	0	1,071,654
22年度	0	1,075,405	0	1,075,405
23年度	0	1,001,585	0	1,001,585

両施設

年度	ブロイラー	成鶏	あひる	検査羽数
19年度	750,355	1,324,097	0	2,074,452
20年度	760,713	965,928	0	1,726,641
21年度	290,701	1,071,654	0	1,362,355
22年度	0	1,075,405	0	1,075,405
23年度	0	1,001,585	0	1,001,585



2. 精密検査実施状況

(1) 精密検査件数

検査項目	と体(肉類)	器具類
一般生菌数	112	116
大腸菌群数	112	116
黄色ブドウ球菌数	112	116
カンピロバクター	112	116
サルモネラ属菌	112	116

(2) 残留抗菌性物質検査件数

検体	検査検体数	陽性検体数
腎臓等	40	0

(3) 抗菌性物質等の残留物質モニタリング検査件数

検査項目	検査検体数	検査結果
抗菌性物質	8※	全て基準値以下
内部寄生虫用剤	3	

※延べ検体数は28

内訳

検体	延べ検体数	検査項目	備考
鶏の筋肉	3	フルベンダゾール	内部寄生虫用剤
	4	スルファジミジン	合成抗菌剤
	4	ナイカルバジン	合成抗菌剤
	4	スルファメラジン	合成抗菌剤
	4	スルファキノキサリン	合成抗菌剤
	4	クロピドール	合成抗菌剤
	4	スルファジメトキシ	合成抗菌剤
	2	テトラサイクリン系	抗生物質
	2	ベンジルペニシリン	抗生物質
合計	31		

(2) 月別疾病羽数・処分羽数

月	平成23年度										B施設 (成鶏のみ)			合計
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
処理羽数	70,250	66,006	88,855	79,878	90,113	100,783	75,095	61,984	107,001	104,798	62,791	94,031	1,001,585	
死鳥	150	291	258	165	246	330	100	63	221	285	152	136	2,397	
禁止	1,290	1,029	1,662	1,101	1,477	1,864	1,048	1,228	1,601	2,175	1,192	2,612	18,279	
全部廃棄	252	222	630	199	263	318	521	426	583	419	363	524	4,720	
一部廃棄	248	827	404	270	405	562	425	270	360	612	565	1,269	6,217	
禁止の内訳														
著しい消瘦	509	330	481	406	511	731	461	547	702	1,081	658	919	7,336	
腹水症	373	464	614	544	741	900	501	501	732	862	403	1,255	7,890	
腹膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
炎症	169	92	203	54	77	149	61	68	105	148	69	84	1,279	
外傷	2	6	5	5	12	12	8	3	4	20	18	15	110	
皮膚病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
放血不良	109	54	53	27	22	30	10	32	20	48	15	42	462	
黄疸	123	82	305	65	114	34	7	77	38	16	29	296	1,186	
腫瘍	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	
その他	1	1	1	0	0	8	0	0	0	0	0	1	12	
全部廃棄の内訳														
著しい消瘦	128	93	339	108	98	169	247	229	301	250	268	274	2,504	
腹水症	25	49	70	31	120	35	58	96	135	81	30	120	850	
腹膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
大腸菌症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
サルモネラ症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
ブドウ球菌症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
黄疸	5	0	17	0	0	0	0	0	0	0	0	55	77	
皮膚病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
マレック病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
外傷	1	0	7	0	2	3	3	6	3	1	3	2	31	
放血不良	12	6	8	3	0	1	0	0	0	1	2	2	35	
炎症	27	28	16	5	17	19	42	36	48	34	33	14	319	
白血病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
DFD	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
敗血症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
腫瘍	54	46	173	52	26	91	171	55	96	52	27	57	900	
その他	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	4	
一部廃棄の内訳														
変性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
大腸菌症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
敗血症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
腹水症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
出血	217	533	319	193	351	338	216	199	253	495	376	1,014	4,504	
炎症	10	122	33	61	13	155	51	15	27	12	29	75	603	
腫瘍	0	0	0	0	0	1	0	8	0	0	1	0	10	
黄疸	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
外傷	21	172	52	16	41	68	158	48	80	105	159	180	1,100	
著しい消瘦	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
放血不良	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

第4章 その他の事業

衛生講習会等の実施状況

- 1) 一般消費者に対して、食肉衛生知識の普及啓発をした。
 - ・出前講座の実施 1回(8月)

- 2) (社)日本食肉協会東海北陸ブロック会議に出席し、講演を行った
題目「食肉検査及び牛肉放射性物質検査について」

- 3) 岐阜市食肉卸売市場関連事業者等に対して、衛生管理の徹底と食の安全への意識向上を図った。
 - ・場内衛生担当者会議(参加団体 9団体) 4回
 - ・「食肉衛生検査所通信」の発行 4回

第 5 章 調査研究

1. 調査研究発表一覧 (過去10年間)

年	月	発表演題	発表場所
13	2	豚の大腸における水腫様病変の病理学的検討	平成12年度岐阜県食肉衛生検査技術研修会
13	2	牛の内臓の細菌汚染状況について	平成12年度岐阜県食肉衛生検査技術研修会
13	2	牛内臓から検出された病原細菌に関する検討	平成12年度岐阜県食肉衛生検査技術研修会
13	10	牛内臓搬送ラインの改良による肝臓細菌汚染防止効果について	第12回全食協東海北陸ブロック研修会
14	2	ブロイラー肝臓の細菌汚染対策について	平成13年度厚生労働省食鳥衛生検査技術研修会
14	11	豚の飼養管理とサルモネラ属菌保有状況との関係	第13回全食協東海北陸ブロック研修会
15	2	ELISAを用いた抗生物質検査法について	平成14年度岐阜県食肉衛生検査技術研修会
15	2	食鳥由来 Salmonella Infantis のRAPDを用いた解析	平成14年度岐阜県食肉衛生検査技術研修会
15	2	食鳥処理場における微生物汚染調査と衛生指導について	平成14年度岐阜県食肉衛生検査技術研修会
15	2	豚丹毒抗体調査とPCRを用いた迅速診断	平成14年度岐阜県食肉衛生検査技術研修会
15	10	豚枝肉の微生物汚染状況について	第14回全食協東海北陸ブロック研修会
16	2	豚枝肉の微生物汚染原因についての一考察	平成15年度岐阜県食肉衛生検査技術研修会
16	2	食鳥処理場における食鳥と体および食鳥肉の微生物汚染状況	平成15年度岐阜県食肉衛生検査技術研修会
16	11	Haccperp水を用いた微生物汚染軽減の検討	第15回全食協東海北陸ブロック研修会
16	2	食鳥処理場における衛生指導	平成16年度岐阜県食肉衛生検査技術研修会
17	9	BSEスクリーニング検査陽性時の場内衛生対策演習について	第16回全食協東海北陸ブロック研修会
18	1	牛と畜時における、と体不動化装置を用いたピッシング廃止の取組について	平成17年度食肉衛生技術研修会
19	1	と畜場における、カンピロバクター属菌の汚染実態調査	平成18年度食肉衛生技術研修会
19	11	フルベンダゾール試験法アルミナ酸性カラム精製時におけるsoak法の検討	第18回全食協東海北陸ブロック研修会
20	2	ブロイラー肝臓の次亜塩素酸ナトリウムによる細菌汚染振盪効果について	平成19年度岐阜県食肉衛生検査技術研修会
20	10	QuEChERS法(クエッチャーズ法)を応用した豚肉中のスルファジミジンの迅速分析法の確立	第26回全国食肉衛生検査所協議会理化学部会研修会
20	11	炭疽の発生を想定した演習の実施について	第19回全食協東海北陸ブロック研修会
20	11	豚枝肉の汚染状況の把握と衛生確保に向けての取り組み	第19回全食協東海北陸ブロック研修会
21	2	名古屋コーチンのサルモネラ、カンピロバクター保菌状況調査	平成20年度岐阜県食肉衛生検査技術研修会
21	10	岐阜市食肉地方卸売市場における豚丹毒の発生状況とその分離菌株について	第20回全食協東海北陸ブロック研修会
22	2	食鳥処理場へ搬入された鶏のサルモネラ、カンピロバクター保菌状況調査	平成21年度岐阜県食肉衛生検査技術研修会
22	10	弱酸性次亜塩素水を用いた枝肉微生物汚染制御(報告)と今後の応用に関する検討	第21回全食協東海北陸ブロック研修会
23	2	成鶏から分離されたカンピロバクターのニューキノロン系薬剤耐性	平成22年度岐阜県食肉衛生検査技術研修会
24	1	SOPの映像化による、残留動物用医薬品検査法の伝達	平成23年度食肉衛生技術研修会

実施者Aは20代女性、Bは50代男性で共に理化学検査の経験はなく（特に簡易なものを除く）、学生時の研究室も臨床系である。

実施者は、映像化SOPを事前に見た後、30分程度の説明を受け、その後は映像化SOPのみで添加回収試験を実施した。

使用する器具や試薬は名称を記入した札と共にあらかじめ検査台に並べ、映像化SOPで使用時に検査台から器具や試薬を取る画像を表示することにより、器具や試薬の間違いを防いだ。これら器具等を使い映像化SOPと同時進行で操作を進め、試験溶液の作成まで行った。

なお、試験は「食品中に残留する農薬、飼料添加物又は動物用医薬品の成分である物質の試験法について」（平成17年1月24日付け食安発第0124001号。）に準じて行った。（図1、図2参照）

2 映像化SOPの特徴及び工夫した点

- ・ パワーポイントにより作成。操作と同時進行で映像・音声と共に説明する仕組みとした。
- ・ スライド内の文字数は極力少なくし、一目で読み取れる程度とした。
- ・ スライド内に表示できない説明部分は音声で補うこととした。

この際、スライドに文字で表示されている部分の音声と、表示されていない部分の音声を聞き分けられるよう別の声とした。

- ・ 静止画で説明しにくい部分はビデオを採用した。

3 添加回収試験の詳細

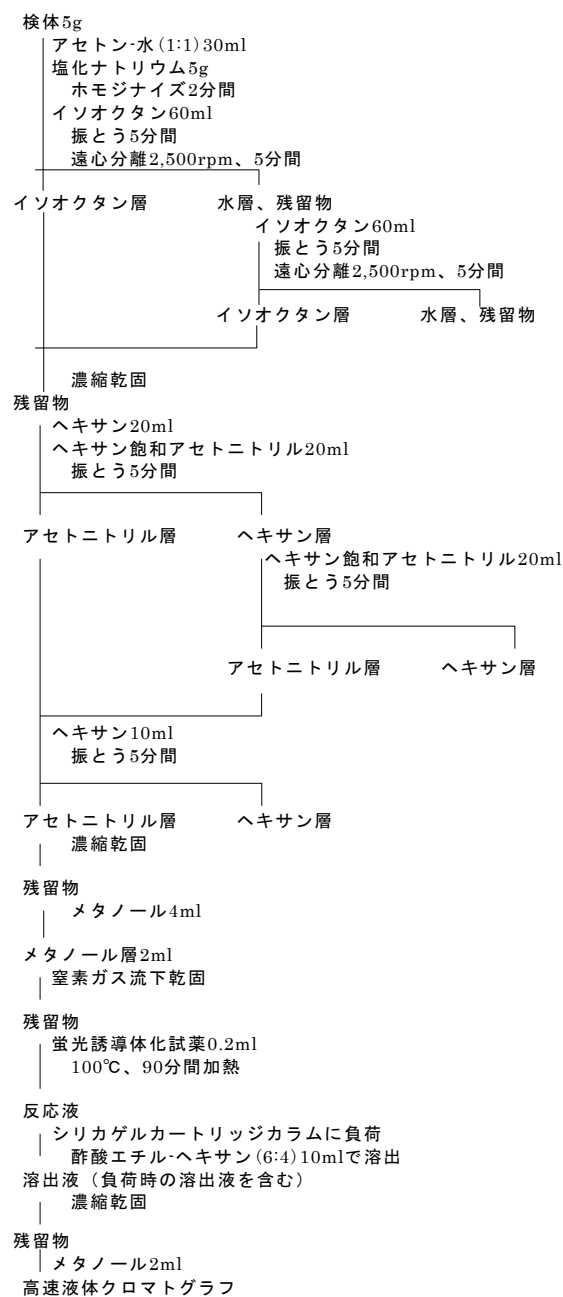
- ・ グループ1 豚筋肉（横隔膜）にスルファジミジン及びスルファジメトキシンをそれぞれ0.10ppm及び0.20ppmとなるよう添加。
- ・ グループ2 豚筋肉（横隔膜）にイベルメクチン及びモキシデクチンをそれぞれ0.02ppm及び0.05ppmとなるよう添加。

実施者Aはグループ1及びグループ2をそれぞれ1日2検体ずつ、5日間実施する枝分かれ実験を行った。

実施者Bはグループ1及びグループ2をそれぞれ5検体ずつ実施した。

なお、実施者A、B共にグループ1、2の試験を別々の期間で実施した。

図2 グループ2 フローシート



成績

実施者A及びBの回収率は4薬剤とも、75%から110%の範囲で収まり、回収率の平均は表で示すとおりすべて80%を上回り良好な結果であった。

精度についても全てRSD10%以下であり、良好な結果であるといえる。

実施者AとBの比較では実施者Aの方が若干精度が高かった。

グループ1と2の比較ではどちらの実施者についてもグループ1の方が精度が高かった。回収率については実施者Bにおいてはグループ2の方が若干低いという結果であった。

添加回収試験結果

	添加薬剤	試験検体数	真度		精度	
			回収率平均(%)	併行精度(RSD%)	室内精度(RSD%)	
実施者A	グループ1	スルファジミジン	10(2×5日)	95.3	2.64	2.73
				スルファジメトキシシン	90.9	1.29
	グループ2	イベルメクチン	10(2×5日)	99.2	7.86	8.99
				モキシデクチン	90.4	3.67
実施者B	グループ1	スルファジミジン	5	92.0	5.80	—
				スルファジメトキシシン	97.3	4.46
	グループ2	イベルメクチン	5	83.8	8.05	—
				モキシデクチン	86.4	7.02

考察

今回、作業工程の少ないグループ1と、比較的工程の多いグループ2の映像化SOPを作成した。グループ1ではエバポレーターのスイッチの場所や、窒素ガスボンベの開け方に至るまで、工程毎に丁寧にスライド化し、音声、画像等を挿入した。グループ2ではグループ1と類似した操作の部分は簡略化し、ミニカラムの操作や蛍光誘導化等、新たに加わった操作部分について、詳細な説明を加えた。真度・精度がグループ1比べ若干低いのは、工程が多いためと考える。

実施者Aは理化学検査担当者として、この後も高速液体クロマトグラフの検査に関わっているが、他の薬剤の検査については書面による通常のSOPのみで、真度、精度共に優れた結果を出しておりスキルアップも早い。

また、実施者Bについても、良好な結果を得られたことから、映像化SOPは幅広い年齢層に対応できると考える。

問題点としては、こういった映像化SOPの製作に時間と労力がかかることであるが、今回の調査により、全ての項目を作成する必要はなく、ポイントとなる検査について作成するだけで、他の項目の伝達効率も増すと思われた。

また、BSE検査開始時のように、緊急に大量の検体を多くの人が実施する必要性にせまられた時にはこういった手法が役立つと考える。

第6章 付 表

1 岐阜市食肉地方卸売市場概要

(1) 概 要

ア 位 置	岐阜市境川5丁目148番地		
イ 敷 地 面 積	21,879.93 m ²		
ウ 建 物 面 積	7,814.73 m ²		
エ 能 力	と畜処理能力(1日)	大動物 75頭	小動物 600頭
	汚水処理能力(日量)	1,500m ³	
	冷蔵能力(小動物に換算)	1,050頭	
	汚泥脱水能力	4,000kg	
	収容能力	大動物 115頭	小動物 560頭
オ 建 築 年 月 日	昭和42年11月 岐阜市食肉センターとして竣工		
カ 建 築 物			

名 称	面 積	備 考
1. 本 館 棟	4,105.78 m ²	大動物と室 小動物と室 冷蔵庫 懸肉室兼せり場
2. 事 務 棟	381.60 m ²	大動物解体室 小動物解体室
3. 控 室 棟	132.46 m ²	内臓処理室 枝肉処理場
4. 作 業 員 控 室	64.80 m ²	大動物係留所 小動物収容所
5. 調 理 師 控 室	64.80 m ²	市管理事務所 関係事務所
6. 現 業 員 控 室	39.58 m ²	管理人住宅 買受人控室
7. 倉 庫	48.60 m ²	会議室
8. 病 畜 と 室	50.00 m ²	
9. 焼 却 炉 上 屋	98.99 m ²	
10. 洗 車 場	64.00 m ²	
11. 汚 水 浄 化 槽	1,942.40 m ²	
12. ブ ロ ア ー 室	49.17 m ²	
13. 汚 泥 処 理 場	173.00 m ²	
14. ポ ン プ 室	9.00 m ²	
15. 廃 棄 物 処 理 棟	59.42 m ²	
16. お が く ず 置 場	30.00 m ²	
17. 受 付 棟	4.53 m ²	
18. 冷 蔵 庫 棟	496.60 m ²	

キ 機 構

- 岐 阜 市 施設の維持管理及び業務の指導監督
食肉検査(岐阜市保健所食肉衛生検査所)
- 卸 売 業 者 株式会社 岐阜県畜産公社(荷受機関)
授權資本金 5,200万円 払込済資本金 4,950万円
県 700万円 市 700万円 全農 1,350万円 県信連 400万円
県食肉連 1,700万円 県家畜商組合 100万円
岐阜県卸売市場条例に基づき、市場を通じ食肉の委託販売を行う機関であり、食肉の販売代金を基準とする手数料を収受し業務を運営する者
- 買 受 人 市長の承認を受け、本市場でのせり売りに参加し食肉の買受けをする者
- 付 属 営 業 人 市長の承認を受け、本市場での市場業務に附帯した業務を行う者
- 日 本 食 肉 格 付 協 会 牛、豚の枝肉の規格格付けを行う者